

## 【ロタウイルス胃腸炎とは】

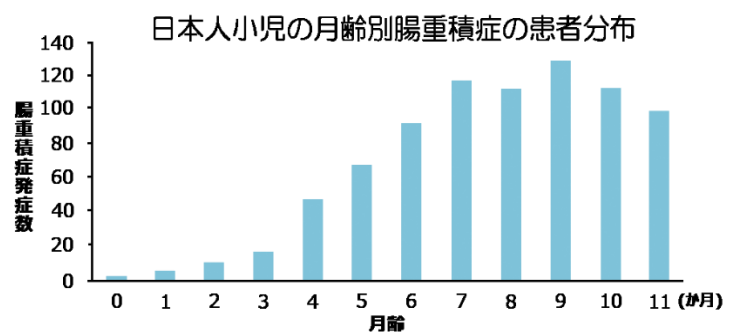
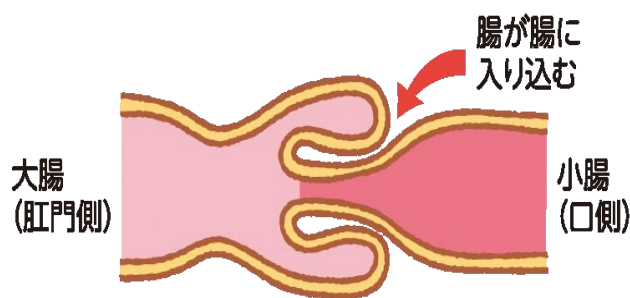
ロタウイルスによって引き起こされる急性の胃腸炎で、乳幼児期（0～6歳ころ）にかかりやすい病気です。感染力が非常に強く、手洗いや消毒などをしっかりしても感染予防をすることが難しいため、乳幼児のうちにほとんどの子どもが感染します。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合、症状が出ないか出て軽微な症状です。しかし、乳幼児は激しい症状が出ることが多く、特に初めて感染したときに症状が強くなります。主な症状は、水のような下痢（白っぽい、米のとぎ汁のようなこともあります）、嘔吐、発熱、腹痛です。症状がひどくなると入院が必要となったり、まれに脳や腎臓に影響を及ぼすこともあります。生後すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は早い時期に完了させます。

接種直後は、医療機関で30分ほど様子を見てから帰宅してください。ワクチン接種後2週間ほどは、赤ちゃんの便の中に、ワクチンのウイルスが含まれることがあります。おむつ交換の後など、丁寧に手を洗ってください。

また、ワクチンの副反応として、ぐすり、咳・鼻みず、発熱、食欲不振、嘔吐、胃腸障害などがあります。通常は数日で治まりますが、症状が続く時や、高熱、けいれんなど、異常を感じた場合には、すぐに医師の診察を受けてください。

## 【腸重積症について】

腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になることです（下図）。0歳児がかかる病気の中で、めずらしくはない病気ですが、0歳児の場合ワクチンを接種しなくても起こる病気で、月齢があがるほど発症しやすくなります（下のグラフ）。ワクチン接種後1～2週間は、腸重積症の発症の可能性が高まると言われています。ワクチンの影響を受けないようにするためにも、早めに接種を開始し、早期に接種完了させましょう。



腸重積症は、手術が必要になることもあります。発症後早く治療すればほとんどの場合、手術をせずに治療できます。以下のような症状が一つでも現れたら、腸重積症が疑われます。

☆泣いたり不機嫌になったりを繰り返す

☆嘔吐を繰り返す

☆ぐったりして顔色が悪くなる

☆血便がでる

このような症状に気づいたら、すみやかに接種した医療機関を受診してください。接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを医師に伝えてください。